

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-151644

(P2001-151644A)

(43) 公開日 平成13年6月5日 (2001.6.5)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テ-マ-ト* (参考)

A 6 1 K 7/06
7/46

A 6 1 K 7/06
7/46

4 C 0 8 3

A

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平11-338211

(22) 出願日 平成11年11月29日 (1999. 11. 29)

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 土蔵 圭二

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 板屋 寿人

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 100068700

弁理士 有賀 三幸 (外3名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 頭皮臭用香料組成物

(57) 【要約】 (修正有)

【解決手段】 メチルアンスラニレート、イソブチルキノリン、オイゲノール、アルデヒドC-10、クマリン、バニリン、トリブラル、ラベンダー油、パチュリ油、シス-3-ヘキセノール、 α -ヨノン、 β -ヨノン、 γ -ヨノン、 α -イソメチルヨノン、アリルヨノン、 α -メチルヨノン、 β -メチルヨノン、 γ -メチルヨノン、 α -イロン、 β -イロン、 γ -イロン、メチルヨノン-G、サンダルマイソールコア、アルデヒドC-14ピーチ、 α -ダマスコン、 β -ダマスコン、 γ -ダマスコン、 α -ダイナスコ、 β -ダイナスコ、リリアル、リナロール、チューベローズ、カラナル、アンブロキサ、シトラール、メチルサリシレートなどから選ばれる1種以上の香料を含有する頭皮臭用香料組成物。

【効果】 頭皮臭をマスキングする効果に優れる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 メチルアンスラニレート、イソブチルキノリン、オイゲノール、アルデヒドC-10、クマリン、バニリン、トリフラル、ラベンダー油、パチュリ油、シス-3-ヘキセノール、 α -ヨノン、 β -ヨノン、 γ -ヨノン、 α -イソメチルヨノン、アリルヨノン、 α -メチルヨノン、 β -メチルヨノン、 γ -メチルヨノン、 α -イロン、 β -イロン、 γ -イロン、メチルヨノン-G、サンダルマイソールコア、アルデヒドC-14ピーチ、 α -ダマスコン、 β -ダマスコン、 γ -ダマスコン、 α -ダイナスコン、 β -ダイナスコン、リリアール、リナロール、チューベローズ、カラナール、アンブロキサン、シトラール、メチルサリシレート、p-クレゾール、マラクジャ、モスシンス、オリバナムレジノイド、グレープフルーツ油、ゲラニルニトリル、フェノキシエチルアルコール、フロロザ（1-メチル-3-イソブチルヘキサノール）、ヘリオトロピン（3, 4-メチレンジオキシベンズアルデヒド）、アニシルアセテート（4-メトキシベンジルアセテート）、アニシルアセトン（p-メトキシフェニルブタノン）、アセチルオイゲノール、アセチルイソオイゲノール、ペンタライド（シクロヘキサデセノン）、及びシクロヘキシルサリシレートから選ばれる1種以上の香料を含有する頭皮臭用香料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、頭皮臭を効果的にマスキングすることができる香料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】人の頭皮の臭いは、体臭と同様に不快臭として周囲に印象付けられる。これまでに、口臭、腋臭、足臭等の体臭については種々の研究がなされている。しかし、頭皮臭については基礎的な研究がなされ始め、モデル頭皮臭等の構築研究もなされつつあるが、まだ十分研究されるには至っていない。一方、毛髪化粧料には、種々の香料組成物が配合されているが、口臭、腋臭、足臭に関するマスキングが種々検討されているのに比べ、頭皮臭を効果的にマスキングする香料素材についての具体的な検討はなされていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、頭皮臭をマスキングする効果に優れた香料組成物を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、数多くの香料成分について、頭皮臭をマスキングする効果を検討した結果、特定の51種の香料が、頭皮臭用の香料組成物に好適であることを見出した。

【0005】本発明は、メチルアンスラニレート、イソブチルキノリン、オイゲノール、アルデヒドC-10、クマリン、バニリン、トリフラル、ラベンダー油、パチュリ油、シス-3-ヘキセノール、 α -ヨノン、 β -ヨノン、 γ -ヨノン、 α -イソメチルヨノン、アリルヨノン、 α -メチルヨノン、 β -メチルヨノン、 γ -メチル

ヨノン、 α -イロン、 β -イロン、 γ -イロン、メチルヨノン-G、サンダルマイソールコア、アルデヒドC-14ピーチ（ γ -ウンデカラクトン）、 α -ダマスコン、 β -ダマスコン、 γ -ダマスコン、 α -ダイナスコン、 β -ダイナスコン、リリアール、リナロール、チューベローズ、カラナール、アンブロキサン、シトラール、メチルサリシレート、p-クレゾール、マラクジャ、モスシンス、オリバナムレジノイド、グレープフルーツ油、ゲラニルニトリル、フェノキシエチルアルコール、フロロザ（1-メチル-3-イソブチルヘキサノール）、ヘリオトロピン（3, 4-メチレンジオキシベンズアルデヒド）、アニシルアセテート（4-メトキシベンジルアセテート）、アニシルアセトン（p-メトキシフェニルブタノン）、アセチルオイゲノール、アセチルイソオイゲノール、ペンタライド（シクロヘキサデセノン）、及びシクロヘキシルサリシレートから選ばれる1種以上の香料を含有する頭皮臭用香料組成物を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明で用いる香料は、前記の51種から選ばれ、特に限定されるものではないが、持続性、特に適用してから翌日までの持続性を考慮すればメチルアンスラニレート、イソブチルキノリン、オイゲノール、アルデヒドC-10、クマリン、バニリン、アニシルアセテート、アニシルアセトン、パチュリ油、サンダルマイソールコアが好ましい。これらの香料は、1種以上を用いることができ、香料組成物中に合計で10～100重量%、特に30～100重量%、更に50～100重量%配合するのが好ましい。なお、本発明の香料組成物は、前記香料及び他の香料成分、すなわち香氣成分のみからなるものである。

【0007】本発明の香料組成物は、種々の毛髪化粧料に配合することにより、頭皮臭を効果的にマスキングすることができる。毛髪化粧料への配合量は、0.001～20重量%、特に0.01～5重量%、更に0.05～1重量%であるのが好ましい。また、毛髪化粧料としては、例えばシャンプー、リンス、トリートメント、ヘアパック、ヘアクリーム、スタイリング剤、育毛剤、ヘアトニック、ヘアコロネ等のヘアケア製品が挙げられ、特に頭皮に直接適用する剤形で洗い流さないもの、例えば育毛剤、ヘアトニック、スタイリング剤等に用いるのに好適である。

【0008】

【発明の効果】本発明の香料組成物は、頭皮臭のマスキング効果に優れたものであり、種々の毛髪化粧料に好適に使用できる。

【0009】

【実施例】実施例1

表2～表4に示す組成の香料組成物について、頭皮臭のマスキング効果を評価した。結果を表2及び表3に併せ

で示す。

【0012】

【表2】

【0010】(評価方法) カップ(下部円直径4.5cm、上部円直径6.5cm、高さ9cm; 内容量約216cm³)を用い、このカップに、表1に示すモデル頭皮臭を1回噴霧した状態で、各香料組成物(賦香率0.1重量%)を1回噴霧し、その直後、30分後、1時間後及び翌日のマスキング効果を、モデル頭皮臭を5として、以下の基準で評価した。

- 1: 完全にマスキングできている。
- 2: ほぼマスキングできている。
- 3: かすかに頭皮臭がする。
- 4: 頭皮臭がする(マスキングやや不十分)。
- 5: はっきり頭皮臭がする(マスキング不十分)。

【0011】

【表1】

モデル頭皮臭

成 分	配合量(重量%)
酢酸	0.010
イソ酪酸	0.020
酪酸	0.020
イソ吉草酸	0.010
吉草酸	0.010
オクタン酸	0.100
ドデカン酸	0.500
トリデカン酸	0.300
ミリスチン酸	4.000
ペンタデカン酸	3.000
パルミチン酸	11.000
ヘプタデカン酸	1.500
ステアリン酸	1.500
オレイン酸	6.000
リノレン酸	0.800
スクワレン	37.000
コレステロール	5.000
スクワラン	1.000

	直 後	30分後	1時間後	翌 日
メチルアンスラニレート	1	1	1	1
イソブチルキノリン	1	1	1	1
オイゲノール	1	1	1	2
アルデヒドC-10	1	1	2	2
クマリン	1	1	2	2
バニリン	1	1	2	2
トリブラル	1	1	2	3
ラベンダー油	1	1	2	3
アニシルアセテート	1	1	2	2
アニシルアセトン	1	1	2	2
パチュリ油	1	2	2	2
シス-3-ヘキセノール	1	2	2	3
α -ヨノン	1	2	2	3
β -ヨノン	1	2	2	3
γ -ヨノン	1	2	2	3
α -イソメチルヨノン	1	2	2	3
アリルヨノン	1	2	2	3
α -メチルヨノン	1	2	2	3
β -メチルヨノン	1	2	2	3
γ -メチルヨノン	1	2	2	3
メチルヨノン-G	1	2	2	3
α -イロン	1	2	2	3
β -イロン	1	2	2	3
γ -イロン	1	2	2	3
ヘリオトロピン	1	2	2	3
ペンタライド	1	2	2	3
香料組成物A (表4)	1	2	2	2

【0013】

【表3】

	直 後	30分後	1時間後	型 号
サンダルマイソールコア	2	2	2	2
アルデヒドC-14 ピーチ	2	2	2	3
α -ダマスコン	2	2	2	3
β -ダマスコン	2	2	2	3
γ -ダマスコン	2	2	2	3
α -ダイナスコン	2	2	2	3
β -ダイナスコン	2	2	2	3
リリアル	2	2	2	3
リナロール	2	2	2	3
チューベローズ	2	2	2	3
カラナール	2	2	2	3
アンプコキサン	2	2	2	3
シトラール	2	2	3	3
メチルサリシレート	2	2	3	3
D-クレゾール	2	2	3	3
マラクジャ	2	2	3	4
モスシンス	2	2	3	3
オリバナムレジノイド	2	2	3	3
フロコザ	2	2	3	3
アセチルオイゲノール	2	2	3	4
アセチルイソオイゲノール	2	2	3	4
グレープフルーツ	2	2	4	4
ゲラニルニトリル	2	2	4	4
フェノキシエチルアルコール	2	3	4	4
シクロヘキシルサリシレート	2	3	4	4
ヘキシルシンナミックアルコール	4	4	4	4
ターピネオール	4	4	4	4

【0014】表2及び表3の結果から明らかなように、本発明品はいずれも、頭皮臭をマスキングする効果に優れたものであった。これに対し、ヘキシルシンナミックアルコールやターピネオールは頭皮臭をマスキングでき

なかった。

【0015】

【表4】

香料組成物A	(重量部)
レモン油	10
ベルガモット油	100
ジヒドロミルセノール	155
c i s - 3 - ヘキセノール	15
トリプラー	4
アリルアミルグリコレート	15
ラベンダー油	40
リナリルアセテート	75
オイゲノール	10
α -ダマスコン (50%ジプロピレングリコール溶液)	4
ゲラニオール	20
フェノキシエチルアルコール	20
エディオン	100
メチルアンスアニレート (10%ジプロピレングリコール溶液)	5
リリアール	70
リナコール	200
β -ヨノン	50
カラナール (10%ジプロピレングリコール溶液)	5
バニリン (10%ジプロピレングリコール溶液)	3
クマリン	7
ジプロピレングリコール	107
計	1000

【0016】

実施例2 (スプレー)

(成分)	(重量%)
グリセリン	2
セタノール	4
軽質流動イソパラフィン (日石三菱アイソゾール400)	4
ポリオキシエチレン (20E.O.) イソセチルエーテル	0.5
イソステアリルグリセリルエーテル	2
ジメチルポリシロキサン	1
95%エタノール	86.4
香料組成物A (表4)	0.1

100

【0017】

実施例3 (ヘアミスト)

(成分)	(重量%)
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.2
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム (28%)	0.5
ソフタノール	0.1
グリセリン	3
95%エタノール	10
香料組成物A (表4)	0.05
精製水	バランス

100

【0018】

実施例4 (ヘアクリーム)

(成分)	(重量%)
ジメチルポリシロキサン	5
ソルビトール	10

α -モノイソステアリルグリセリルエーテル	1
高級アルコール (オレイルアルコール)	7
プロピレングリコール	2
95%エタノール	2
ポリオキシエチレンソルビタンモノオレート	4
グリセロールモノステアレート	2
香料組成物A (表4)	0.15
精製水	バランス
	100

【0019】

実施例5 (育毛剤)

(成分)	(重量%)
95%エタノール	60.00
1-メントール	0.15
ニコチン酸アミド	0.15
β -グリチルレチン酸	0.12
スエルチアニン	1.50
黄杞抽出液	0.95
オトギリ草エキス	0.09
感触向上剤	0.20
pH調整剤	0.20
香料組成物A (表4)	0.30
精製水	バランス
	100

【0020】

実施例6 (育毛剤)

(成分)	(重量%)
95%エタノール	74.00
1-メントール	0.70
デシルテトラデシルジメチルアミノオキサイド	0.15
1,3-ブタンジオール	0.12
パントテニルエチルエーテル	0.40
ニコチン酸アミド	0.10
ニコチン酸ベンジル	0.01
β -グリチルレチン酸	0.20
1-ドデセン	0.01
酸化チタン	0.50
pH調整剤	4.50
香料組成物A (表4)	0.30
精製水	バランス
	100

【0021】

実施例7 (ヘアリキッド)

(成分)	(重量%)
アクリル酸アミド・アクリル酸・メタクリル酸メトキシポリ エチレングリコール共重合体	2
ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸 (21P.O.)	7
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	5
ジプロピレングリコール	3
ポリオキシエチレンイソセチルエーテル (20E.O.)	0.4

ジエチレングリコールモノエチルエーテル	0.6
2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸	0.1
香料組成物A (表4)	0.3
水酸化ナトリウム	3
95%エタノール	60
緩衝剤	0.4
毛髪浸透剤	0.2
精製水	バランス
	100

フロントページの続き

(72)発明者 石原 秀貴

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
 社研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA112 AA121 AB032 AB242
 AC012 AC022 AC061 AC062
 AC072 AC091 AC092 AC102
 AC122 AC132 AC171 AC172
 AC182 AC211 AC212 AC341
 AC342 AC422 AC432 AC511
 AC512 AC562 AC662 AC692
 AC792 AC841 AC842 AC851
 AC852 AC902 AD092 AD152
 AD192 AD532 BB41 CC05
 CC31 CC32 CC37 DD08 DD22
 DD23 DD27 DD31 EE18 EE22
 EE28